



林業福島

No. **627**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



11 2016

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 運ばれる木材



林材業労働災害防止のために

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部

支部長 平子 作 磨

今年五月に支部長に就任しました平子です。県内の労災事故はここ数年減少傾向にありますが、未だ三〇件台と高い数値になっています。

私は大学卒業後すぐに、父から林業の仕事を教えられました。あれから四〇年近く経った現在、映画「Wood Job」で全国的に有名になった「緑の雇用」事業の講師を依頼され、私より年上の方から下は十八歳まで幅広い年齢の人達に林業のノウハウを教えています。

林業は、他産業に比べ労災事故率の高い業種であり、近年は高性能林業機械の導入が進み、安全かつ高効率化が進んでいますが、まだまだ刈払機やチェーンソー作業が中心となっています。怪我をしそうになって慌てたり、従業員に大声で注意することの繰り返しです。

経営者として各種講習会を受講し、林野庁より安全管理指導専門家の認定を受け、労働局のチェーンソー指導員、県の安全衛生指導員等も委嘱され、労災事故が一件でも少なくなるよう努力しており、この経験を労災防止協会の支部運営に活かしてまいります。

十月にはチェーンソーの技能向上を目指した第七回福島県チェーンソー選手権を県林業祭会場で開催いたしました。また、厚生労働省の助成による「リスクアセスメント集団指導会」を県内三方部で開催、多数の参加をいただきありがとうございました。

東日本大震災から五年七ヶ月が経過、復旧・復興が「がんばろう福島」の下、進みつつあります。林材業面に目を向ければ、木質バイオマスやCLT工場建設計画が登場、森林の再生整備事業が各市町村から発注され山仕事も忙しくなり、平成三〇年「第六九回全国植樹祭」の植樹リレーがスタートを切るなど明るい話題が見られます。

これらの事業を進め、健全な事業経営をしていくには、労働災害を起さない対策が大切です。このために、当協会では各種講習会や安全衛生指導事業などをより一層努めてまいることにしており、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

林材業労働災害防止のために

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部

支部長 平子 作磨…………… 1

トピックス

「とうほう・みんなの森づくり」植林活動…………… 2

林業研究センターだより…………… 3～4

高校生を対象とした海岸防災林再生セミナーを開催…………… 5

福島県林業労働力確保支援センターだより…………… 6

地すべり工事では日本で最初に採用された地盤改良工…………… 7

普及指導員通信…………… 8

水源林整備事務所だより…………… 9

苗協だより…………… 10

「自然に親しむ」…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

「とうほう・みんなの森づくり」植林活動 「森林(もり)とのきずなづくり植樹リレー」に参加

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

十月一日(土)、株式会社東邦銀行は、いわき市常磐湯本町に設けた企業の森林「とうほう・みんなの森」において、いわき市、福島県と締結している企業の森林づくり協定書の活動計画に基づき植樹活動を実施し、併せて「森林(もり)とのきずなづくり植樹リレー」に参加しました。

今回の植樹リレーは、県内に設定したマツ、ヒノキ、スギ、ブナの四コースの一つのマツのバトンを引き継ぐもので、「企業の森林づくり」とし



島副知事立会いのもと、当協会会長(写真左)から東邦銀行北村頭取(写真右)に植樹リレー・バトンを引き継がれた。その後、福島県形の木製プレート(いわき市の位置にピンを挿し込んで引き継ぎを終了した)。

てリレーに参加する記念すべき第一号となりました。



木製の短冊に、全国植樹祭へのメッセージや思いを書く参加者

主催者の東邦銀行の社員や家族をはじめ、福島県及びいわき市の職員、「企業の森林づくり」の運営業務を担う当協会など三二〇名が参加しました。

開会式の中で、植樹リレーのセレモニーが行なわれ、大勢の参加者が見守る中、第六九回全国植樹祭福島県実行委員会会長(知事)の代理出席の畠利行副知事の立会いのもと、当協会の齋藤卓夫会長から東邦銀行の北村清士取締役頭取に、マツの木で作られた福島県の形をしたプレートとバトンが手交されました。併せて、参加者にマツ製の短冊を配布し、森林づくりへのメッセージや思

いを書いていただきました。この短冊は、二年後に南相馬市において開催される全国植樹祭の式典会場に届けられます。

植樹リレーセレモニーの後、参加者は植樹会場に移動し、〇・二二畝の林地にクヌギ、ヤマザクラ、シバグリの苗木二〇〇本を植樹するとともに、入社一〜二年目の社員の方は、昨年植樹した区域内の下刈を実施しました。

平成二二年度からスタートした「企業の森林づくり」は、現在までに十二件の協定が締結され、協定期間が満了するなどして現在も企業による森林づくり活動が継続しているのは六件となっています。当協会



記念植樹をする当協会会長、島副知事、北村東邦銀行頭取、鈴木南々重さん、日西いわき市農林水産部次長(お名前は、写真左から右の順に紹介)

は、本県の豊かな森林を保全するため「企業の森林づくり」を支援してまいりますので、多くの企業が森林づくり活動にご参加くださいますようお願いいたします。



一生懸命に植穴を掘る参加者



参加者全員で記念写真撮影

福島県林業研究センターだより 落葉除去施工地における広葉樹萌芽枝の 成長状況と放射性セシウム濃度



福島県林業研究センター

福島県林業研究センター

森林環境部 主任研究員 **橋本正伸**

1 はじめに

福島第一原子力発電所の事故に伴い、阿武隈山系をはじめとする県内の広範囲の森林には多くの放射性物質が拡散・降下しました。それら森林における放射性物質や空間放射線量を低減化するため、最も効果的・即効的な除染方法は落葉層の除去とされています。落葉層の除去は、廃棄物の発生、施工コストの増大、土砂流出や、広葉樹林における更新伐施業と併せて実施した場合には、萌芽枝の成長への影響も懸念されます。

2 調査内容等

落葉層の除去が行われた箇所（除

このことから、当センターでは、「ふくしま森林再生事業」を活用して更新伐施業と落葉層の除去が実施された田村市、いわき市の広葉樹林に調査プロットを設定し、萌芽枝の成長状況や放射性セシウム濃度等について継続的に調査を行っています。（現在の試験研究課題名・森林内における放射性物質の移動実態の把握と森林除染が樹木に与える影響の解明、H二六〜二八）

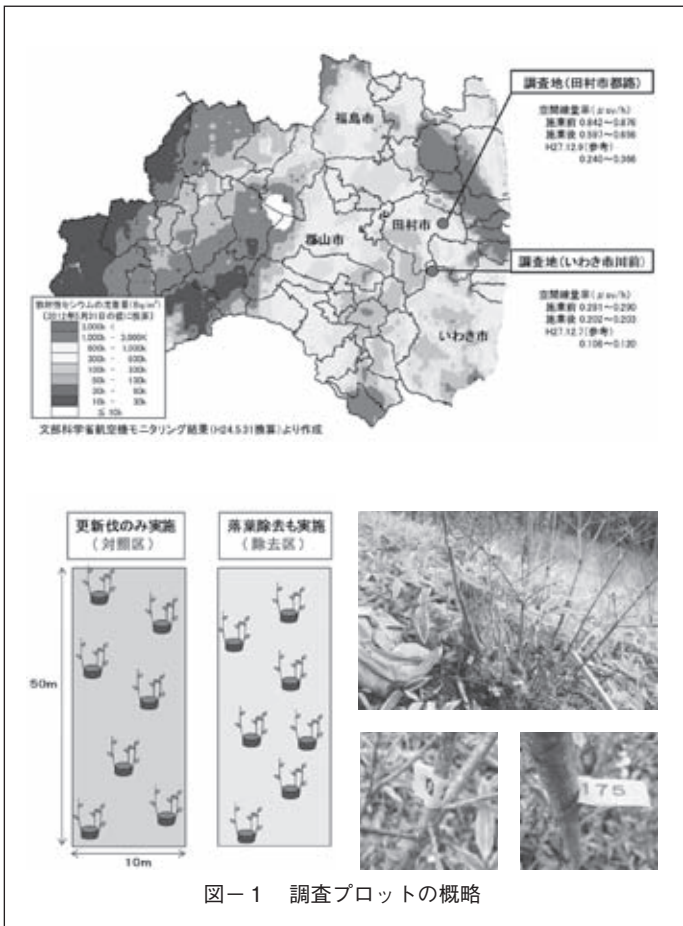


図-1 調査プロットの概略

去区）と、除去を行っていない箇所（対照区）に、それぞれ幅十メートル（等高線方向）×長さ五〇メートル（傾斜方向）のベルト状調査プロットを設定し、切株（田村市・コナラ、いわき市・ミズナラ、各プロットの選定切株は二〇〜二四株）から発生した全萌芽枝の本数・長さ・直径（発生位置から二〇センチ高）等を毎年調査しています（図-1）。

また、平成二六年度には各調査プロットの十切株から萌芽枝を採取して、放射性セシウム（ ^{137}Cs ）濃度

3 結果と考察

を測定しています。なお、課題最終年度にあたる今年度も同調査を実施しており、現在、採取した試料を調整・測定中です。

今回の報告では、調査プロットを設定した平成二五年度に予備的に採取・測定していた萌芽枝のデータも含めて、これまでの経過を比較した結果を紹介します。

萌芽枝の発生本数をみると、田村市、いわき市の調査プロットとも、

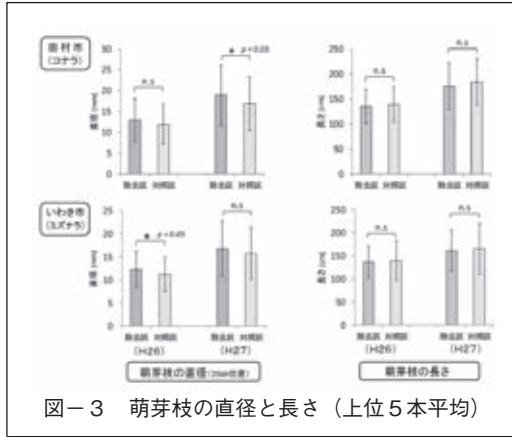


図-3 萌芽枝の直径と長さ (上位5本平均)

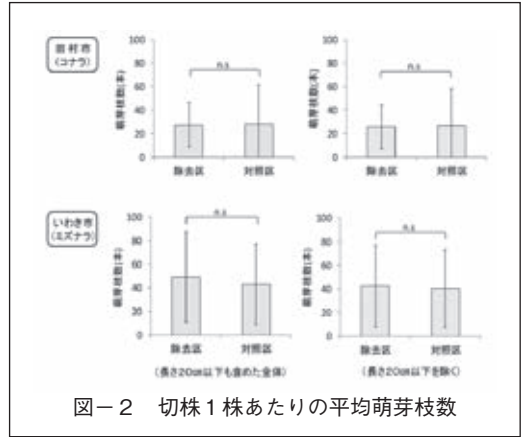


図-2 切株1株あたりの平均萌芽枝数

注) 図-1、2、3の各図中のバーは標準偏差を示し、*は平均値に有意差があり、n.s.は有意差がないことを示す (t検定 p<0.05)。

除去区・対照区とで有意な差は見られませんでした (図-2)。

また、各切株の萌芽枝のうち、成長の良い上位五本を当該切株の代表値として、除去区・対照区の萌芽枝の平均直径・長さを比較したところ、平成二六年度調査時点のいわき市、平成二七年度調査時点の田村市において、対照区の萌芽枝の直径が有意に小さいという結果となりました。しかし、田村市、いわき市とも除去区・対照区とで萌芽枝の成長状況には顕著な差は見られず、落葉層の除去による萌芽枝の発生本数や成長量への影響は少ないと考えられます (図-3)。

萌芽枝の放射性セシウム濃度をみると、田村市、いわき市とも減少傾向にあります。しかし、田村市の除去区の放射性セシウム濃度が、枝の部分・葉の部分とも対照区より有意に高いほか、全体に除去区の方が高いような傾向が見られました (図-4)。これは、伐採前の初期被爆の状況等、様々な要因が考えられますが、樹体中の放射性物質の動態については未だに不明な点も多いため、萌芽枝の成長状況や土壌中の放

射性セシウム濃度調査とともに、引き続き調査・検討していく予定です。

4 その他、現在実施(試行)中の調査について

萌芽枝中の放射性セシウムの移動実態の把握の一助とするため、今年度より試行的に同一切株(各調査区で5株選定)から時期別に萌芽枝を採取して、各部位(根元からの高さ別、当年枝・過年枝の別、着葉・落葉の別等)に分けた放射性セシウム濃度の調査を行っています (図-5)。今後、切株部分も含めたより詳細な調査実施と、土壌・根系関連の調査研究の成果も合わせて、樹体

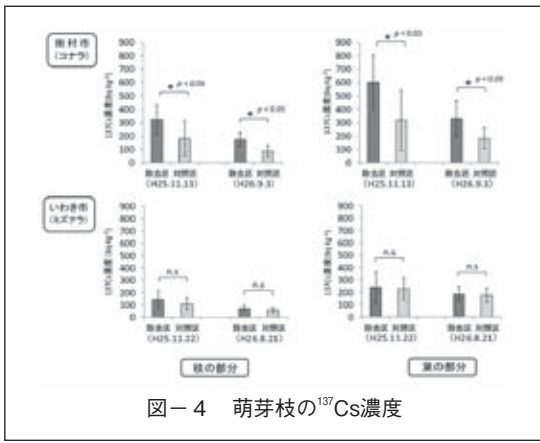


図-4 萌芽枝の¹³⁷Cs濃度

中の放射性セシウムの動態を明らかにしていきたいと考えています。

なお、本調査を進めるにあたっては、国立研究開発法人森林総合研究所、日本放射線安全管理学会並びに同会員の皆様に、放射性物質の濃度測定ほか、多大なご指導・ご協力をいただいておりますことを申し上げます。



図-5 (上) 部位別に分けた萌芽枝 (右) 落葉収集用に予め網袋をかけた萌芽枝 (11月以降採取予定枝)

高校生を対象とした 海岸防災林再生セミナーを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会



九月三〇日（金）、福島県立磐城農業高等学校において、海岸防災林再生セミナーを開催しました。これは、東日本大震災で発生した津波によって流失した海岸防災林（以下、「海岸林」という。）の再生には長い年月がかかるため、同校で緑地土木を学んでいる生徒たちに、人と森との関わりやその変化、森の荒廃と災害の関係、森が防災に対して果たす役割、海岸林の役割等について専門

家をから講義をしていただき、高校生をの海岸林再生に對する意識の醸成を図ると同時に、海岸林再生を継承する人材を育成することを目的として、海岸防災林再生等復興支援事業の一環として当協会が開催したものです。セミナーは、「海岸防災林再生の重要性」という演題で、同校の緑地土木科一年生三十三人の生徒を対象として、国土防災技術株式会社

社執行役員・緑環境事業部長で、日本海岸林学会の理事や海岸防災林再生事業のアドバイザーとして幅広く活躍されている田中賢治氏を講師にお迎えし、開催しました。

講演の内容は、森が生活の場となった理由、人と森との関わりの変化、森の荒廃と災害の関係、森が防災に對して果たす役割、海岸防災林

造成の歴史、海岸林の役割、植栽方法等多岐にわたりました。生徒たちは、海岸防災林造成において、最も重要な事項の一つに「適地適木」があり、自然の立地条件に合った樹種を選定することが重要であることなど、ふだん耳にすることのない専門家の講義に熱心に耳を傾けていました。

講演終了後、生徒たちはバスで常磐自動車道を利用して相馬市磯部字大洲の海岸防災林に移動しましたが、途中、車窓からは高速道路の法面の植生や周囲の森林の現況を、また、到着してからは海岸林復旧工事の現状を見学しました。

海岸防災林造成現場では、講師から海岸防災林再生の必要性と植栽基盤の特徴や、植栽や、植栽クロマツを強風から守る防風柵、同様に飛砂から守る静砂垣、さらに植栽したクロマツの現況など



講師の講義を受ける生徒

家から講義をしていただき、高校生をの海岸林再生に對する意識の醸成を図ると同時に、海岸林再生を継承する人材を育成することを目的として、海岸防災林再生等復興支援事業の一環として当協会が開催したものです。セミナーは、「海岸防災林再生の重要性」という演題で、同校の緑地土木科一年生三十三人の生徒を対象として、国土防災技術株式会社

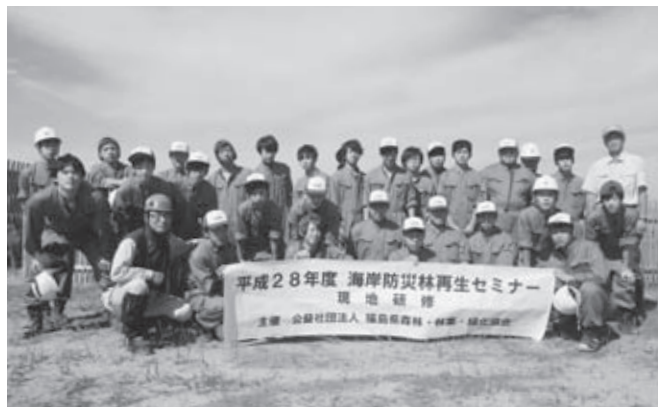


磐城農業高校から相馬市の海岸防災林にバスで移動

講演の内容は、森が生活の場となった理由、人と森との関わりの変化、森の荒廃と災害の関係、森が防災に對して果たす役割、海岸防災林



講師から海岸防災林の重要性について説明を受ける生徒



最後に参加者全員で記念写真撮影

について説明を受けた後、抵抗性クロマツコンテナ苗を用い、移植鍬（ゴテ）を用いて実際に植栽を体験しました。今回のセミナーが、参加した高校生にとつて知識習得だけでなく良い経験となり、将来、海岸林再生を継承する人材になることを期待しています。



講師から植樹方法について指導を受ける生徒

福島県林業労働力確保支援センターだより

高校生の刈払機教育を支援

森林・林業担い手育成事業で実施



講義を受ける生徒達

◎はじめに

平成二八年九月三〇日、森林・林業担い手育成事業として、福島県立会津農林高等学校において同校森林環境科一年生三七名を対象に刈払機取扱作業者教育を開催しました。

◎支援センターの取組紹介

講義が始まる前の若干の時間をいただき、高校生向けの支援センターの取組を次のとおり紹介しました。

「人材確保」

求職者への林業就業支援講習のメニューを紹介し、写真や映像で実施状況を説明、今回の事業や森林の仕事

事ガイドランスや求職者相談、事業主が共同で求人を行う委託募集などを紹介しました。

「人材の育成」

「緑の雇用」の集合研修での研修状況、新規就業者支援として、資格取得や現場研修への支援、就業後もキャリアアップのため各種研修会を行っていることを紹介しました。

「事業主への雇用管理改善指導助言」

事業主の皆様へ、就業者の確保・定着への助言・指導も行っていることを紹介しました。

支援センターの取組紹介

皆様にも関係する主な仕事をピックアップすると

人材の確保

- ◎林業就業支援講習・担い手育成事業（高校生への林業の紹介など）の実施
- ◎森林の仕事ガイドランスなど、求職者への情報提供・求職者相談
- ◎委託募集（事業主が合同で求人募集）

人材の育成

- ◎「緑の雇用」の集合研修の実施
- ◎新規就業者への支援（資格取得・OJT研修への助成）
- ◎林業就業者のキャリアアップの支援（森林作業道作設研修・高性能林業機械研修キャリア形成支援研修など）

事業主への雇用改善の指導・助言

- ◎働きやすい職場へ改善して、林業就業者の確保定着を指導・助言



支援センターの取組を紹介

◎（安全衛生教育）室内

林業・木材製造業労働災害防止協会福島県支部の講師の方々により、「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育テキスト」を基に、刈払機の構造及び機能、機械や刃の選定等を、作業に関する知識では、安全な操作を行うための服装や履き物、保護帽、耳栓やイヤーマフなどを実際に展示して、説明を受けました。



刈払機の説明を行う講師

さらに、刈払機を使う時期の、雷や熱中症の発生対策、蜂さされの予防や対策、その他危険な動植物への防備などの講義を受けました。

また、点検及び整備に関する知識、災害事例、振動障害とその予防、労働安全衛生法などの関係法令について学びました。

◎（安全衛生教育）実技

学校の敷地を実習場所として実技を行いました。

最初に、機械操作の二本として、実際に持ち方や足の運び方、機械の刈幅や大振りや往復刈りはしないこ

と、キックバックの防止などの説明を受けた後、生徒一人ひとりが直接指導を受けていました。



個別に操作指導を受ける生徒

◎アンケートの結果から

左表のとおりのお返答を得ました。

事業に関するアンケート結果

- ◆刈払機的安全衛生教育を受けてみて、特に印象に残ったものは？（複数回答可）
 - 支援センターの取組紹介 6名
 - 刈払機の知識 15名
 - 振動障害の知識 16名
 - 災害事例 17名
 - 実技 25名
 - ◆今後、森林・林業関係でやってほしいことは？
 - チェーンソーの操作 9名
 - 林業現場の見学 9名
 - 製材工場・原木市場の見学 7名
 - 地元の林業者の講話 0名
 - その他 1名
- （林業が営まれることによる自然環境の変化やその保全方法）

特に「やってほしいこと」のそのお返答は学科ならではの感じました。

◎終わりに

事業を終えて、生徒の職業の選択肢のために、林業のことをしっかり知っていただく重要性を感じました。

地すべり工事では日本で 最初に採用された地盤改良工

福島県会津農林事務所 石井清隆

本県における林野庁関係の地すべり防止区域四〇地区のうち、半数近くの十八地区が会津農林事務所管内で指定されています。このように多くの地すべり地形が存在する当管内では、現在も二つの地区で地すべり工事を実施していますが、今回は、被災時の現象が特異で、かつ特殊な工法で復旧工事を実施している柳津町の高森地区をご紹介します。

当地区において、地すべりが発生したのは昨年四月上旬の融雪期でした。当時、現地には一帯近くの積雪があり、気温の上昇に伴って急激に雪解けが進んでいました。そのような中、地区内を流れる中ナ沢の上流域において大規模な地すべりが発生し、融雪によって供給された大量の水とともに、土砂や石礫などが約一・五キロメートル下流の県道に流出しました。

被災当日のテレビのニュースでは、一辺が一辺位の石のようなものが泥流と一緒に流れて県道上を流下

するという、とてもインパクトのある映像が放送されましたが、ニュースの中で大きな石に見えたものは、実は雪の塊でした。この現象は、豪雪地帯において融雪期に地すべりが発生した場合、土砂と雪塊と一緒に流下する「雪泥流」であることが後日判明しました。

この災害によって、県道は即日通行止めとなり、周辺の集落が一時的に孤立状態になるなど、住民の安全と迂回路の確保、災害の早期復旧が強く求められたことから、当事務所では、発生直後から土石流センサーやカメラ等による監視システムを設置するとともに地元説明会を行うなど、地域住民の安全・安心の確保に努めました。

次に、地すべり対策工について説明します。地すべり頭部については、調査・観測の結果、変動が継続しているとともに地下水が豊富に存在することから、排土工と集水井・ボーリング暗渠工を選定しました。

一方、中腹部については、非常に軟弱で含水率が高いルーズな土砂が大量に堆積しており、杭やアンカー工による抑止が期待できないことから、軟弱地盤でも有効な工法を選定する必要性がありました。そのため、宅地造成工事等では一般的であるものの、地すべり工事では日本で最初に実施することになる地盤改良工を選定しました。この工法は、バックホウのアーム先端部にトレンチャーという特殊な装置を付けて、現地の土砂とセメント系固化材を攪拌する



雪泥流発生状況



地盤改良工実施状況

ことで土壌を改良するもので、当地区においては軟弱な土壌の粘着力を増加させることで、土砂を安定させるために選定しました。

以上のとおり、高森地区では、過去に経験のない地盤改良工を軟弱地盤・急傾斜という非常に厳しい現場条件のなかで施工しているため、想定外の問題が多数発生しています。が、地域の強い要望である早期復旧を実現するため、今後とも工事の推進に努めてまいります。

「南会津産きのこ用原木等の さらなる安全を求めて」

福島県南会津農林事務所
森林林業部 林業課 佐藤 宗一

原発事故による放射性物質の影響から、県内の殆どの地区できのこ用原木の指標値を超える結果となっており、当南会津郡内でも、その影響を一部の地区で受けています。

事故前の県内におけるしいたけ原木の生産は、阿武隈山系を中心に盛んで、全国3位の生産量を誇っていましたが、現在の生産は全国36位となり、他県から原木を購入するといった状況が続いています。

現在の原木の検査方法は、1ロット（または10ha当たり）3本の抽出検査で実施されていますが、本年度管内であった事例として、検査結果が18Bq/kgの購入原木から作られたほだ木を検査したところ、指標値を超える放射性物質が確認されました。

これは、線量にばらつきのある林分では抽出検査では対応が難しいことを示しており、南会津産原木の安全確保を図るために、本年1月に「しいたけ原木用放射性セシウム濃度非破壊検査器」を2台設置し、原木の全量検査を行うための対応を進めています。原木の確保や安全な伐採・搬出、スムーズな検査体制を構築し、南会津ブランドとして安全で安心して使える原木を県内はもとより県外にも供給していくことを目的として、「南会津広葉樹利用生産組合」を昨年10月に立上げて本格的な取組みを行うこととしました。

非破壊検査器の仕様は、次のとおり。

| | |
|-------|---------------------------|
| 原木サイズ | L=80mm~100mm、Φ=50mm~150mm |
| 測定時間 | 30sec / 本以内 ※100本/時間 |
| 測定温度 | -5℃~40℃ |
| 設定 | スクリーニングレベルの設定可能 |



非破壊検査器

本年度の運用予定が11月からであることから、経理や機械操作、データ管理の方法及び原木検査証、PRチラシ等を作成して行くこととなります。

原木1本当たりの単価設定は、本年度計画している年度内の総費用を全検査本数により計画していることから、初年度は少々高くなりますが、検査本数が多くなれば、単価を低く抑えることが可能となります。

なお、当該経費は、購入者がかかり増し経費として東京電力株式会社に請求することとなります。



感動体験！ふるさとめぐり in 南会津の様子

また、非破壊検査器を導入してからは、原木生産者及び原木きのこ生産者、きのこ消費者等の現場視察があり、実際に機械を操作してその仕組み等の説明を行っています。中でも、8月に地域農林企画課が計画した「平成28年度県産農林水産物の安全・安心実感ツアー」（感動体験！ふるさとめぐりin南会津）では、中通り地方の親子19組38名が訪れ、原木きのこの安全確保に向けた取組みについての説明や機械の操作・検査結果等を熱心に聴き、メモを取ったり・写真に収めている参加者もいました。

最後に、全量検査を実施し県内はもとより県外の消費者にも、様々な活動をとおしてさらなる「安全・安心」をPRしていく活動を行っていきたいと思いますので、機械の利用等がありましたらご一報ください。

福島水源林整備事務所だより

「収穫業務検討会」 を開催 福島水源林整備事務所



造林者研修

平成二八年十月五日～七日に猪苗代町の水源林造成事業地において、「福島水源林整備事務所収穫現地検討会」を福島県職員、ふくしま緑の森づくり公社職員、造林者、関東整備局管内職員を交えた総勢六四名の参加を募り開催しました。



検討会では、「列状間伐」及び「採材」について研修しました。「列状間伐」については、契約地が猪苗代磐梯高原ICや福島市から裏磐梯高原に続く観光道路となっている国道四五九号に隣接しているため、モデル造林地となるよう、光波



県公社研修

測距儀（トータルステーション）を用い国道と直角に列を設定し二〇センチの間隔に測量しました。

また「採材」については、二・一センチないし四・一センチの採材において、一本の伐倒木から採れる最高の素材価格を得るための研修を行いました。

参加者からは、列状間伐の列設定を光波測距儀で行うメリットや、採材による材価の違いなどに意見質問等が多数あり充実した内容となりました。

福島県では、平成二七年度に「民有林における分収造林事業に関する覚書」を締結しており、福島県・ふくしま緑の森づくり公社・福島水源林整備事務所の三者が覚書に基づき



県公社集合写真



造林者集合写真

相互に連携し、森林整備・造林技術の研鑽を積む良い検討会となりました。

当日は、台風十八号が接近し東北地方上陸の予報もあり、開催が危ぶまれましたが、五日の夜から六日未明に東北地方を横断し、吹き戻しの風が少し残りましたが降雨も無く無事予定通り終了しました。

今後も「民有林における分収造林事業に関する覚書」を、水源林造成事業が主導的立場で連携・推進し、森林整備センターの業務について広く様々な林業関係者に理解していただく取組みとして継続的に開催し、地域に貢献したいと思えます。

団体のページ

苗協メモ

福島県産「山行用
コンテナスギ苗」
本格出荷始まる

コンテナ苗生産のための技術の検討は平成二二年から各地で開催され、植栽時期を選ばない育苗技術として、年々コンテナ苗の需要は高まってきました。

コンテナ苗は、特に再造林コストを削減する「伐つてすぐ植える」一貫作業システムの導入には欠かせない苗生産技術であります。

福島県では、スギ苗の六割を生産している会津地方での生産が可能か検証する必要があり、他県より時間を要しました。

会津支部による課題解消への取り組みは、平成二五年の秋から会津美里町の苗畑から始まりました。

コンテナにスギ苗を移植し、雪に埋もれさせ翌年春まで放置する試験や、同じ雪国である秋田県、岩手県の生産者を訪問し、雪国でのコンテナ



ナ育苗が可能か調査や実証を重ねた結果、雪国でも可能であることを実感しました。

平成二七年秋には、金山町へ会津美里町で生産したコンテナ苗を出荷し、平成二八年から会津支部員を含め県内十組員がコンテナスギ苗生産に着手するまで広まりました。

一方、植栽する林業事業体も初めて取り扱う苗であることから、コンテナ苗がどのように生産されているのか、この秋に納品する「いしかわ林業協同組合」水野理事長ほか五名による福島県産「六五、四〇〇本」の山行用コンテナスギ苗畑で研修を九月二七日に開催しました。

始めに(有)上原樹苗組合員の苗畑で、幼苗、コンテナ育苗工程、納品する苗畑で意見交換を行い、その後、新地町の川上種苗園、最後に(有)加藤

樹苗園の苗畑調査を行い、山林に植栽する時の留意点や根鉢のでき具合等の意見交換を行いました。

① 手の指横にして二本程隠れる程に深植えとして下さい。

② しっかりとした根鉢の苗を出荷しますが、根鉢がくずれたときは、丁寧に植栽して下さい。ハダカ苗と同じく植えて下さい。

③ 根鉢の容量は、三〇〇cc、二五〇cc 生分解二五〇ccの三タイプです。

④ 梱包は、四〇本又は五〇本を一ネットに入れ納品します。

⑤ 出荷前に水に漬けて出荷します。(二日間程度は散水不要です)

山林に苗を植栽する林業事業体と苗を納品する組合員による苗畑研修会開催により、これまで以上に「苗」への気遣いが深まりました。

秋のコンテナ苗の出本数は十万本以上となります。今後、福島県農林種苗農業協同組合は、「切つてすぐ植える」一貫作業システムに欠かせないハダカ苗生産からコンテナ苗生産へ移行する組合員の育苗技術の向上を図り、安定供給する体制を構築してまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしく願います。



4月の雪解け様子



いしかわ林業協同組合現地研修会

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 20 |

塩貝の大カヤ

樹木医 鈴木俊行



は納屋などの建物とケヤキやモウソウチク、トチノキなどの屋敷林に囲まれ、県道からは樹冠頂部が少し見えるだけだが、近づくとその巨大さに圧倒される。本樹にまつ

「塩貝の大カヤ」は、双葉郡榎葉町上繁岡字塩貝地内の民家（坂本氏邸）の敷地内に生育している。塩貝地区は、国道六号の榎葉町役場の交差点から西に入り、県道三五号（いわき浪江線）を富岡町方面に北上した富岡町との境界近くにある。生育場所は、坂本氏のお屋敷内で、主屋の西側にどっしりと立っている。周辺

伝わっていないが、昔は敷地内に三本のカヤが直線状に並んで生育しており、戦後建築材として使うため主に近い一本を残して二本は伐採された。伐採されたカヤはこれよりもさらに大木だったということでも、残っていればさぞ雄大な景観だったに違いない。本樹は、カヤとしては県内屈指の巨樹で、推定樹齢は一〇

〇〇年といわれ、昭和四九年九月二〇日に県指定天然記念物、昭和五八年二月十七日に県緑の文化財に登録されている。

本樹の樹種はカヤ (*Torreya nucifera*) でイチイ科カヤ属の常緑針葉樹である。分布は日本の東北地方から屋久島にかけてと、朝鮮半島に生育する。雌雄異株で成長は極めて遅いが寿命は長い。材は緻密で虫除けの芳香を放ち、耐久性、保存性が高い。また、最も知られている用途は碁盤、将棋盤、連珠盤であるが、浴室用具や建築材、船舶材などにも使われることもある。実は食用となるが、そのままではヤニ臭くアクが強いため、アク抜きをしてから食べられる。私の家のイグネ（屋敷林）にカヤがあり、子どもの頃はおやつとしていやおうなしに食べさせられ美味しいと思わなかったが、今はあのカヤ臭い味がたまらない。また、実から絞った油で揚げた天ぷらは絶品である。



本樹の樹形寸法は、樹高二〇・五〇m、幹周九・〇〇m、根元周一四・四〇mの巨樹である。主幹西側には幹割れがあり、その状況等から本樹は二本が融合したのではないかと考えられる。幹の表面は凹凸が著しく、まるで一〇〇〇年生きてきたシワのようである。枝張りには、東一六・九〇m、西一五・五〇m、南一四・五〇m、北一六・七〇mと均整のとれた美しい樹形をしている。本樹は本県を代表するカヤの巨樹で、平成十四年刊行の環境省フォローアップ調査報告書では、全国第六位とされている。また、私の幹周の計測では県内で最も太いカヤである。

本樹が生育するのは榎葉町の個人のお屋敷内であることから、見学に際してはマナーを守り失礼のないよう十分注意し、県内最大のカヤに会いに行ってみてはいかがだろうか。その迫力にきつと圧倒される。

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(8月15日現在)

(単位: m当り千円)

| 区分 | 形量 | | 材質 | 樹種 | 中通り地方 | | 会津地方 | | 浜通り地方 | | 県平均 | | |
|-------|-------|-------|-----------|--------|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 径(cm) | 長さ(m) | | | 当月 | 前月差 | 当月 | 前月差 | 当月 | 前月差 | 当月 | 前月差 | |
| 一般用材 | 小 | 5~9 | 4.00 | 並 | スギ | 9(8~10) | 0 | (0~0) | | 9(8~9) | △1 | 9(8~10) | 0 |
| | | 10~14 | | | | 11(10~11) | 1 | (0~0) | | 11(11~12) | △1 | 11(10~12) | 0 |
| | 中 | 14~22 | 3.00 | 並 | スギ | 13(12~13) | 1 | 10(10~10) | 1 | 12(12~13) | △1 | 12(10~13) | 0 |
| | | | | | | 6.00 | 並 | ヒノキ | 12(11~13) | 0 | (0~0) | | 15(15~16) |
| | | | 並 | スギ | 15(14~17) | | | | 0 | 10(10~10) | 0 | 16(15~16) | 0 |
| | | 20~28 | | | 3.65 | 並 | スギ | 10(10~12) | 0 | 10(10~10) | 1 | 11(11~12) | △1 |
| | | | 4.00 | 並 | | | | スギ | 10(10~12) | 0 | 10(10~10) | | 12(11~13) |
| | | | | | 4.00 | 並 | アカマツ | | 9(8~11) | 0 | (0~0) | | 9(8~10) |
| | 1.80 | 並 | アカマツ | 6(5~6) | | | | 0 | (0~0) | | 7(7~7) | 0 | 6(5~7) |
| | | | | 外 | 30以上 | 10.00 | 並 | 米ツガ | (0~0) | | (0~0) | | 29(28~29) |
| | 並 | 米マツ | 32(32~32) | | | | | | 0 | 31(31~31) | 1 | 28(27~29) | △1 |
| | | | 28以下 | | 3.80 | 並 | エゾマツ | (0~0) | | (0~0) | | 28(27~28) | 0 |
| 4.00 | 並 | ベニマツ | | | | | | (0~0) | | (0~0) | | 34(27~40) | 0 |
| | | | 並 | カラマツ | (0~0) | | (0~0) | | 26(25~26) | 1 | 26(25~26) | 1 | |
| パルプ用材 | - | - | | | 並 | マツ | (0~0) | | (0~0) | | 5(5~5) | 0 | 5(5~5) |
| | | | 並 | 広葉樹 | | | (0~0) | | (0~0) | | 7(7~7) | 0 | 7(7~7) |

七月の原木市場への入荷状況は、前月比二割減(前年比五割減)の一八、〇三八立方メートルとなっている。販売量については、前月比二割減(前年比七割減)の一八、二九六立方メートルとなっている。八月の価格については保合いとなっている。

| 区分 | 形量 | | 材質 | 樹種 | 会津共販 | | いわき | |
|------|-------|-------|----|------|-----------|-----|----------|-----|
| | 径(cm) | 長さ(m) | | | 当月 | 前月差 | 当月 | 前月差 |
| 一般用材 | 12以下 | 4.00 | 並 | カラマツ | 7(6~8) | 0 | 7(6~9) | 0 |
| | 13~14 | | | | 10(9~11) | 0 | 8(7~8) | 0 |
| | 16以上 | | | | 13(12~14) | 0 | 10(9~11) | 0 |

注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

今回ご紹介するのは郡山市湖南町です。皆様が湖南町と聞くと何を思い浮かべますか? 布引高原、風力発電、赤津のカツラ、湖水浴、そば、自家製かりんとう、どぶろく特区等々、沢山あると思いますが、紹介スペースも限られていますので、私がチョイスしてみました。



「見どころ食べどころ湖南町」

福島県農林事務所 箱崎 元

二つめは「大阪屋」。湖南町に行つたことがある方なら、一度は入っているであろう名店です。注文できるメニューはたくさんありますが、多くは「みそラーメン」「ソースカツ丼」に分かれるようです。最近試しに「タンメン」を食べましたがアリ!でした。

まず一つめは「隠津島神社」。郡山市湖南町福良字福良山に位置する神社で、境内は杉や広葉樹の天然林におおわれ県の天然記念物、緑地環境保全地区、国有保健保安林に指定されています。隠津島神社本社叢(神社の森)は、ミズナラ・サワシバ・アオダモなど山地帯溪畔林の植物が多くみられ、その種類は二〇〇数種にも及びます。この地域は、数百年来、神域として斧(おの)を入れることなく、天然林の形態を示しており、ミズナラ・アオダモ・サワグルミの巨木の中には、目置通り幹囲二・四五メートルに及ぶものもあります。近くを流れる小川のせせらぎを聞きながら巨木のそびえる参道を歩くと、心が洗われるようでした。

最後の三つめは「ウマブドウ(ノブドウ)」。薬効が非常に高いとして有名で、湖南町では沢山取れ、地元直売所でも売られています。ウマブドウを数年焼酎に漬け込んだものは、非常に高価ですが、万能薬(いすぎ?)として重宝がられています。真偽のほどは不明ですが、沢山の研究がなされているのも本当です。

「隠津島神社」で心を洗って「大阪屋」でお腹を満たし「ウマブドウ」で健康に!機会がありましたら是非湖南町へ!!



表紙の写真



「運ばれる木材」

第13回ふくしま森林・林業写真コンクールで最優秀賞を受賞した佐藤尚久さん（国見町）の作品。撮影場所：北塩原村

はなしのひろば

落ち葉

小春日和に落ち葉や雑草の中から虫の音が聞こえてくることがある。季節を過ぎて鳴く虫の音（コオロギやキリギリス等）を「忘れ音（ね）」といい、今の時期、これが虫の終鳴となる。晩秋と初冬の重なりで聞くこの終わりの音は、ひとつ前の季節の余韻、そして命の音だろうか…。

この「忘れ音」を残し息絶えていく虫たちは、土壌の中で落ち葉と合体して肥料となり、その肥料は根から吸収され、再び植物体の生命を支えるひとつの要素となる。自然界の循環作用である。

たとえば原生林の林床を踏む。両足の靴底の面積を約四〇〇平方センチメートルとすると両足で約八万匹もの生きものを踏みつけていることになる。聞いたことがある。森の中にはそれほどたくさんの小さな生きものが、木の葉と一緒に肥料をつくっているのだ。

ところが、街路樹の落ち葉で市民からの苦情が相次ぐことも少なくない。特に町場では、落葉の時期には、落ち葉がごみ袋に入れられ、燃えるゴミにだされているのを見るとしのびない。が、福島県内でも主要道路の九〇％が舗装されていることを思えば、落ち葉の行方も気になるところである。

しかし、十一月の季節、茶庭には樹々の落ち葉を寄せ集め、吹き寄せをおこなうことがある。晩秋から初冬への風情を人の手づくりだし、露地の景色を変えていく。落ちた葉を無造作に扱わない心、風情を楽しむのに無駄はひとつもないことを教えられる。

そろそろ落ち葉の季節になる。木の葉には、「命」が込められている。（都）

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

相馬 陽光社印刷株式会社

発行人

相馬 陽光社印刷株式会社

（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

森林とのきずなづくり植樹リレー 参加者募集

平成30年春に福島県南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭」に向けて、県民参加の森林づくりを推進し、森林づくりに向けた県民の“想い”をつなぐため、「植樹リレー」を実施しています。

1 開催時期

平成28年6月～平成30年春季
（第69回全国植樹祭開催当日まで）

2 開催場所

県内各地で開催される県民参加の森林づくりイベント

3 実施方法

- 植樹リレーは、県内に4コース（マツコース、ヒノキコース、スギコース及びブナコース）を設け、県内59市町村を巡る予定です。
- 植樹リレーは、県内各地で実施する植樹活動の会場において、次のもの（いずれも4種類の県産材で作成）を順に引き継いで行う。
県の形をした木製プレート（県の形を明記）
木製バトン
- 植樹活動主催者は、植樹活動実施後に、プレート上の開催市町村に丸棒を差し込み、木製バトンとともに次の開催地に引き継ぐ。
- 植樹活動参加者は、木製短冊にメッセージを記入する。

4 ゴール

第69回全国植樹祭式典プロローグをリレーのゴールとし、木製プレート、木製バトン、木製短冊は、式典会場で森林のオブジェとして展示する。

5 お問い合わせ先

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会緑化推進局
（TEL 024-521-1480）



スタートセレモニー



木製のプレート、バトン、短冊

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



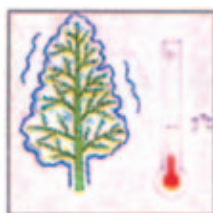
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトング
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトングによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トング
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p> | <p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(巣退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p> | <p>大切な日本の松を守る 住化グリーン®の林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p> | <p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p> <hr/> <p>アメシロなどの 害虫防除殺虫剤</p> <p>打ち込み上手</p> |
|---|---|---|---|



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

| | | |
|--|--|--|
| <p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p> | <p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 出力 27.5kW (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p> |  <p>ZHM800 出力 7.4kW (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p> |
|--|--|--|

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1